

絵地図「四国の山々たんね歩記」 を活用した森林の魅力の発信と 地域への貢献

四国森林管理局
高知中部森林管理署

はじめに

高知中部森林管理署では、絵地図「四国の山々たんね歩記」（以下「たんね歩記」）を活用した四国各地の山や森林の魅力を広く知ってもらうための取組を推進しています。「たんね歩記」と取組内容について紹介します。

「たんね歩記」について

「たんね歩記」は、高知中部森林管理署の職員が制作した絵地図です。絵地図には、四国の山の見どころに加えて、山間地域に伝わる民話や伝承、森林の働きなども書き添えており、色鮮やかな風景やほほえましいイラストも散りばめられた、子供も大人も楽しめる内容になっています。

絵地図のタイトルの「たんね」は、土佐弁で土地や人を「訪ねる」ことを意味する「たんねる」から取ったもので、「歩記」は自らの足で歩いて、見たこと、聞いたこと、感じたことなどを記すというコンセプトで名づけました。

2006年から18年間、当署の職員が四国の山々を登りながら制作を続け、現在は第157号まで制作されており、四国森林管理局Webサイトで公開しています。

「四国の山々たんね歩記」について

（四国森林管理局Webサイト）



管内概要

所在地 高知県香美市物部町大栃 1539

区域面積 53,822ha
うち森林面積 47,208ha
うち国有林面積 13,408ha

関係自治体 香美市・香南市・南国市

高知中部森林管理署は高知県香美市に所在しており、管内の国有林のほとんどは一級河川である物部川の源流部に広く分布しています。天然林が区域面積の半分以上を占め、急峻な地形のV字谷溪谷も多く、高知県最高峰の三嶺をはじめ、石立山、網附森、矢筈山など魅力的な山岳に恵まれています。

多種多様な林層が形成されているとともに、コマツツジやケヤキ、ブナ、トチノキなどの織り成す四季折々の雄大な自然を堪能できる山々は、各シーズンにおいて西日本一とも言われています。

保護林やレクリエーションの森、国定公園に指定されている地域もあり、四国において絶滅が危惧されているツキノワグマも生息していることから緑の回廊に設定されるなど、生物多様性の保全に資する森林の育成にも取り組んでいます。



「たんね歩記」を活用した 森林の魅力の発信・普及

「たんね歩記」を活用して地域での普及活動も活発に行っています。市民団体や教育機関が主催するイベントや講座では、「たんね歩記」を用いて四国の山々の魅力を紹介するとともに、国有林の役割や物部川などの河川と森林の関わり、ニホンジカの生息態や被害対策などの幅広い内容を、森林教室や自然散策ガイド、子供向けのお話し会などの場も通じて紹介しています。

さらに、「日本の植物学の父」と呼ばれる高知県出身の植物学者、牧野富太郎博士の人生をモデルとしたNHKの連続テレビ小説「らんまん」の放送を契機に、自治体の観光局が開催した観光ガイドや観光協会等を対象とする講座において、当署の職員が



いの町 いのの山々たんね歩記 講演会

「たんね歩記」の制作経験を活かして、ガイドをする際の工夫や観光客に来てもらいやすい環境作りについて紹介をしました。

また、当署の位置する香美市では市が主催する「香美市市民大学」が開催されており、森林も含めた地域の素晴らしさを伝える「たんね歩記」の講座には、県内外から毎回200名を超える方に参加いただいています。さらに、地域の活性化をめざす香美市のNPO法人いなかみが主催する、香美市の魅力を訪ねるイベント「香美を巡る体験博 かみめぐり」では、国有林をフィールドとして登山ガイドと連携した森林環境教育活動も行っており、多くの市民に参加いただいています。



土佐清水市 観光ボランティア養成講座



香美を巡る体験博 かみめぐり 体験登山 in 白髪山

「たんね歩記」のイラストは県内各地の案内看板や観光パンフレットに掲載されるとともに、公益社団法人高知県森と緑の会の「緑の募金」の手ぬぐいデザインにも採用されています。令和6年10月～11月には地域振興や文化財保存を目的とした高知県安芸郡奈半利町のアートイベント「なはり古民家・廃校Art&Live2024」において、「たんね歩記」を廃校の教室に展示し、来場者に四国の山々の価値や魅力を改めて認識していただきました。

このように、「たんね歩記」は、登山者の道しるべとしてだけでなく、観光や地域振興などにも活用いただいています。

今後の展開

一枚一枚の「たんね歩記」を制作する際には、実際に山道やその土地を巡り歩いて、地域の人の声も聴きながら、その時々感じ取った肌感覚を大切にして、作品の中に反映しています。このように地域に密着した情報の発信に努める中で、山村からの人口流出や、これまで受け継がれてきた各地域の暮らしの知恵や技術、様々な伝承や、地名までもが消えようとしている状況を強く感じます。

それでも各地域での振興に向けた熱意は高く、今後も当署では、地域での取組に貢献して発信を続けるとともに、「山ではこういう暮らしがあったのだ」ということを次の世代に残してゆくにために、「たんね歩記」に絵と文章で記すことで、国有林の役割や地域の魅力を伝え続けていきたいと考えています。



なはり古民家・廃校Art&Live2024への参加